

袋井市消防団の現状と活動について

現 状

消防団員は、普段は仕事をしながら、「自分たちの地域は自分たちで守る」という郷土愛を持ち、火災対応活動に加え、自然災害の対応活動など、**地域防災の重要な役割**を果たしています。

また、消防団活動を通じた地域の皆様とのつながりにより、イベントや祭典の警戒など、**地域コミュニティ活動にも貢献**しています。

全国的に消防団員数は減少傾向にあり、袋井市においても、**平成30年以降減少**し、令和6年4月1日時点の団員数は、469名と、平成29年4月1日時点と比較すると、**127名減少**しています。**令和7年4月1日現在、470名**となり、8年ぶりに前の年より団員数が増えました。



袋井市消防団は、30歳から34歳の団員が、68.2%を占め、平均年齢30.8歳と、全国平均43.6歳（R5消防白書）と比べ、若い年齢構成で組織されています。

対象年齢の多くは、会社員として、袋井市外へ勤務していることや、子育て世代であり、祭青年や、PTA活動など他の活動に参加していること、核家族化もあり、自身や家族、職場への負担を心配して、消防団への入団を躊躇されるケースが多く見られます。

消防団員数の推移①

(各年度4月1日時点の団員数)

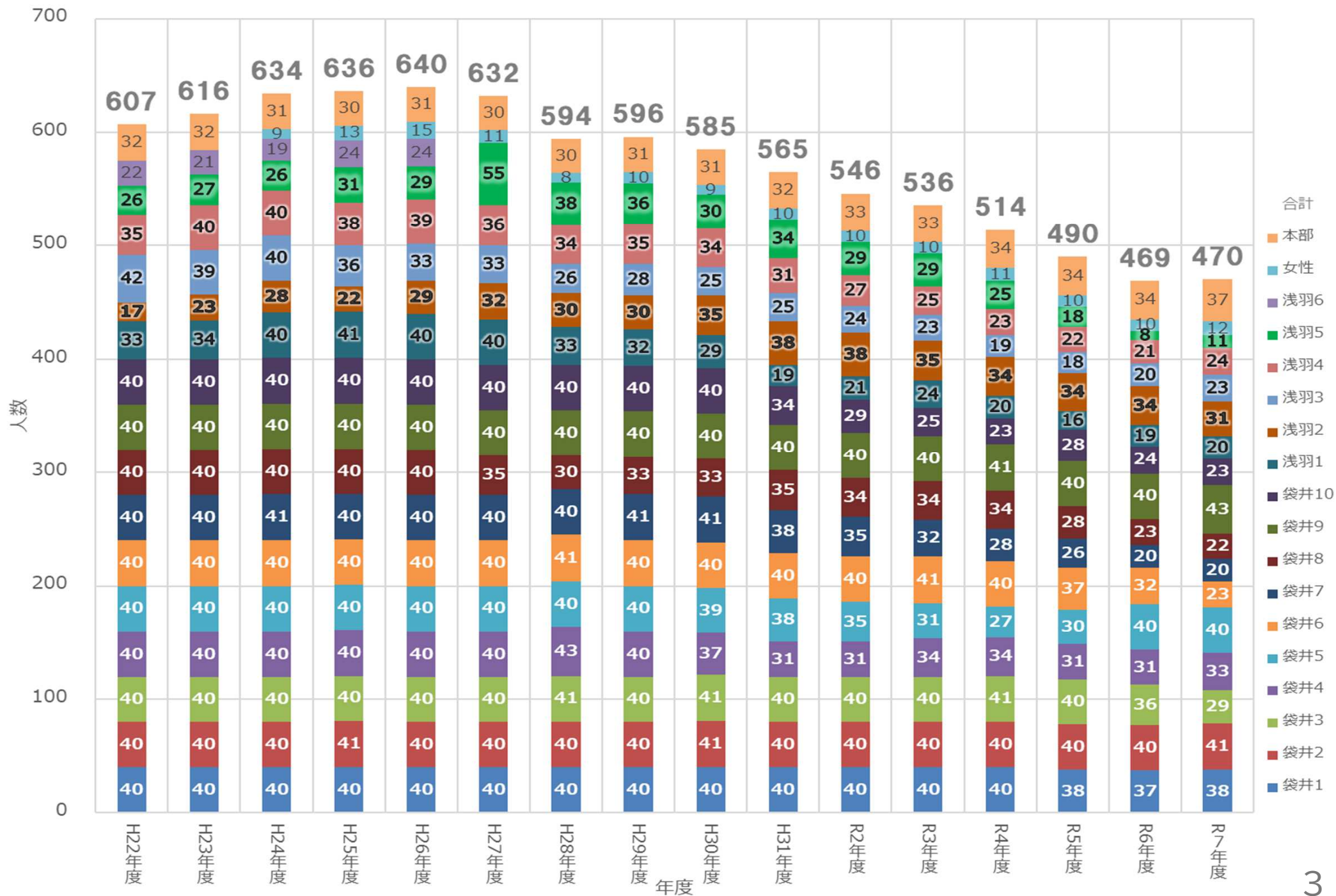
(単位：人)

令和7年4月1日現在

分団名	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	自治会連合会
袋井1	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	38	37	38	袋井、川井、袋井西、田原、方丈
袋井2	40	40	40	41	40	40	40	40	41	40	40	40	40	40	40	41	駅前、高尾、高南
袋井3	40	40	40	40	40	40	41	40	41	40	40	40	41	40	36	29	豊沢、愛野
袋井4	40	40	40	40	40	40	43	40	37	31	31	34	34	31	31	33	袋井北、袋井北四町
袋井5	40	40	40	40	40	40	40	40	39	38	35	31	27	30	40	40	袋井東一、袋井東二
袋井6	40	40	40	40	40	40	41	40	40	40	40	41	40	37	32	23	今井
袋井7	40	40	41	40	40	40	40	41	41	38	35	32	28	26	20	20	三川
袋井8	40	40	40	40	40	35	30	33	33	35	34	34	34	28	23	22	笠原
袋井9	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	41	40	40	43	上山梨、下山梨、宇刈（春岡）
袋井10	40	40	40	40	40	40	40	40	40	34	29	25	23	28	24	23	宇刈（春岡を除く）
浅羽1	33	34	40	41	40	40	33	32	29	19	21	24	20	16	19	20	浅羽北（諸井・浅羽・浅羽山の手・浅羽南）
浅羽2	17	23	28	22	29	32	30	30	35	38	38	35	34	34	34	31	浅羽北（浅名・豊住）
浅羽3	42	39	40	36	33	33	26	28	25	25	24	23	19	18	20	23	浅羽西
浅羽4	35	40	40	38	39	36	34	35	34	31	27	25	23	22	21	24	浅羽東
浅羽5	26	27	26	31	29	55	38	36	30	34	29	29	25	18	8	11	浅羽南
浅羽6	22	21	19	24	24												
女性			9	13	15	11	8	10	9	10	10	10	11	10	10	12	
本部	32	32	31	30	31	30	30	31	31	32	33	33	34	34	34	37	
合計	607	616	634	636	640	632	594	596	585	565	546	536	514	490	469	470	
前年比		9	18	2	4	△ 8	△ 38	2	△ 11	△ 20	△ 19	△ 10	△ 22	△ 24	△ 21	1	

消防団員数の推移②

(各年度4月1日時点の団員数)



消防団員の役割

(消防力の整備指針より)

- 1 火災の鎮圧
- 2 火災の予防及び警戒
- 3 救助
- 4 地震、風水害の予防、警戒、防除
- 5 武力攻撃事態等における国民の保護のための措置
- 6 地域住民に対する協力、支援及び啓発



消防団の主な活動

- ・水利（消火栓、防火水槽）点検（月1～2回）
- ・資機材点検（月1～2回）
- ・放水訓練、図上訓練（月1回～2回）
- ・火災を想定した消火訓練（非常招集演習）（年2回）
- ・防火パトロール（週1回程度）
- ・（春季、秋季）火災予防運動における広報活動
- ・防災訓練への参加（年2回）
- ・水防工法訓練（年1回）
- ・消防（火災）戦術講習会（年1回）
- ・地域行事（コミセンまつり、各種会議など）（年1回～）

団員1人あたり

平均年間活動日 **42日**



団員確保対策の取組

消防団は、団員が、地域を熟知している点や、地域住民とのつながりの中で生まれる緻密な情報網が大きな強みです。山林火災等における鎮圧に向けた消火活動や、風水害時の避難誘導活動、震災における救助活動など、行政では手が届かない、それこそが災害時は重要になります。

消防団は、共助の柱であり、近年、災害が甚大化しており、消防団員の活躍の場は増えており、より一層大きな役割が期待されています。

「袋井市消防団充実強化検討会」により、令和3～5年度の3年間、消防団員の処遇改善、出動報酬の創設、消防団のプロモーションなど、入団促進に取り組んできました。

特に、消防団員の負担となっている活動を見直し、操法等の大会の廃止に伴う早朝訓練の廃止、現場での対応力向上を目指した訓練への切り替えや、活動回数、時間など見直しなども行ってまいりました。

また、令和6年度に、「消防団組織最適化検討会」を立ち上げ、定数、年齢、機能別消防団、分団統合について検討を進めています。

令和7年度は、組織最適化計画を策定し、団員の確保に努めてまいります。

自主（連合）防災隊の皆様へのお願い

お知り合いの方を分団にご紹介いただいたり、勧誘活動を分団員と一緒に行っていただくなど、将来に渡り消防団活動を維持していくため、消防団へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

あなたも「家族と地域を守る」ヒーローに

袋井市消防団
新入団員募集中